



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2023.1-2

No.456

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



Myフィールドの野鳥たち

山田 陸眞(越谷市)

もともと生き物が好きな僕が、特に野鳥に興味を持つようになったのは、小学校3年生のときに参加した越谷市主催の冬の水鳥観察会からだ。以来、小4から中3まで、越谷市の北西部に位置する千間台中学校周辺をフィールド(下地図)とし、特にチュウサギに注目して夏休みの自由研究を続けてきた。今回は、その研究を通じて、そして高1の現在までに観察してきたフィールドの様子を紹介したい。

● 春

3月には、千間台第4公園にはツミがやってくる(本誌2022年9-10月号)。ツバメも。冬鳥たちの姿はまだ目にする時期だ。アオサギの婚姻色が綺麗だったのは3月だった。枯れたヨシ原の休耕田ではオオジュリンの群れが採餌している。ヒバリやウグイスの囀りが春を感じさせる。



4月の田んぼでは田起こしが盛んになり、チュウサギや亜種チュウダイサギ、コサギたちの姿を目にするようになる。婚姻色で色鮮やかな彼らの姿は春の草花に引けを取らない。チュウサギの婚姻色(写真上)はあつという間に終わってしまうが亜種チュウダイサギの婚姻色は比較的長く続く。



ムナグロの先頭集団やコチドリを目にする。私立獨協埼玉中・高校の植木にコムドリ♀を見つけたときは驚いた。ヨシ原ではほぼ夏羽のオオジュリンを見たこともあった。

5月になるとキジのオスたちをよく目にするようになり、あちこちで母衣打ちの音と鳴き声が聞こえる。普段姿を見ない♀も現れる。

そしてムナグロが集団でやって来る。降りる田んぼはほぼ決まっている。降りない田んぼもほぼ決まっている。例年、休息場所は中学校の西側が多いが、小規模な群れで分散していた年があった。近くの鉄塔でチョウゲンボウが営巣したためかもしれない。

このチョウゲンボウは驚くことに鉄塔にあったカラスの古巣を巣として利用したのだ。珍しい行動なのではないだろうか。もしかしたら、ビルのテラスのような感覚で利用したのかもしれない(写真P3左上 編集部撮影)。

また、中学校の西側でハシボソガラスと空中戦後、西に飛び去る若いサシバを見た。随分遠かったがカメラ越しに見る飛ぶ姿は本当にかっこよかった。第4公園でキビタキの囀りを聞いたこともある。

ヨシ原にはオオヨシキリが渡ってくる。初めは遠慮がちに下の方で、しかしだんだんと上に登って来てけたたましく囀りようになる。オオヨシキリの部分白化個体を観察したこともある。セッカも盛んにさえずり飛翔を行う。

野鳥以外にも新方川でヌートリア、あぜ道でクサガメの幼体、水の入った田んぼでカブトエビに出会った。



● 夏

5月の下旬から6月の初旬にはゴイサギを見ることが多い。チュウサギやコサギは夏羽の終わった個体が増えてくる。コアジサシを多く見ることがある。隣接した春日部市に営巣地があるためと思われる。ツミは公園内で狩りをし、求愛給餌を行っている。

昨年、フィールド内では初めてのイソヒヨドリを見た。場所はせんげん台駅近くの自治会館。若い♂がしきりに囀っていた。通学で駅に向かう途中ではあったが、見つけた嬉しさと興奮からその場で本会員の先輩に電話報告をしてしまった。市内の越谷レイクタウン駅や大吉調節池、周辺の市でも記録があることから、居てもおかしくないとは思っていたが、ここまで進出してきたのだなあと心底驚いた。

水路と田んぼにはギンズナとタモロコが多く、砂底にはドジョウが潜んでいる。

7月は暑さが増し、稲が青々と伸びる。ツミの雛は巣立ちし親から餌をもらう。観察できる鳥は少なくなる。アオサギがアズマモグラを捕食しているところに出くわしたこともある(写真上右)。普段見慣れている鳥だからといってまだまだ知らないことが沢山あるのだと改めて気付かされた。

夕方になると、ヨシ原の上をトビが滑るように飛ぶ。カラスがモビングに来ることが多い。低空を飛ぶトビを見てやはり大きい鳥だなあと感じる。田んぼの水位が大幅に下がると、サギたちだけでなくイタチの姿を目にすることもあ

る。**8月**。暑さが厳しくなり、畦道でちらほらとチュウサギなどをみる程度になる。7月に比べてコオロギなど虫の声が増えてくる。



● 秋

9月になるとオオタカがやってくる。姿が見えない日でも稲刈り後の田んぼに食痕が見つかる。稲刈り時には冬羽になったサギたちが多く集まる。モズも増えてくる。せんげん台駅前の大通りは、ムクドリが大規模な群れをなして罅にしている。夕方になると四方八方から飛んできて旋回し、空をうめつくすようにして鳴いている。コムクドリも固まってこの罅に混じっている。朝5時頃にはほぼ全てが罅から飛び立つ。

10月になるとモズの高鳴きが盛んになる。稲刈り後の湿った田んぼにはタシギが多く集まる。高性能な保護色にまんまと騙されてジュツと鋭く鳴くまで気づかないことがある。

昨年は田んぼでクサシギを見つけることができた。水がひいた新方川にはイソシギやカワセミが直線的に飛んでいくのを見る。中学校の北西側のヨシ原ではノビタキが通過して行く。新方川にはコガモが到着する。

11月になると冬鳥たちが本格的に飛来してくる。水が引いた新方川のヨシの茂みにはヒクイナがやってくる。初めの頃は警戒心が強くなかなか姿を現さないが、滞在が長期化すると全身をしっかりと見せてくれるようになる。朝の光を浴びて緋色に輝く姿はとても綺麗な。ヒクイナだけでなくクイナ、バンの若鳥も見られる。ヨシ原や新方川にはアオジがやってくる。しかし、新方川は昨年ヨシを刈る範囲が広がったため、アオジを始めとする鳥たちが潜む茂みが少なくなってしまう、今年は数が減ったように感じている。

電線や畑、公園などにはジョウビタキのヒツヒツという声が響いている。野原でピョンピョ

ンと歩くのはツグミだ。

田んぼやその近くの電線にはミヤマガラスの姿がある。嘴基部の金属的な色はなんともいえない良い色である。ハシボソガラスと行動をとともにしていることもあるが基本的に同じ種同士で固まっている。コクマルガラスが混じることがあると地元のバーダーさんたちが話してくれたが、まだ暗色型らしきものしか見たことがない。

● 冬

12月は、葉が落ちてきた林にオオタカが堂々と止まっている。遠巻きにカラスが騒ぐが、首を回すだけで居座っている。この時期見られるのは♀と思われる個体で特に大きく感じる。飛び立つとすぐに体を斜め下に向け地を滑るようにして凄いいスピードで飛び去る。まるでジェット機だ。

1月になるとそれまで残っていた緑が枯れ、一面褐色の風景になる。風が強いと鳥に出会えないことが多い。

2月。昨年、初めてミソサザイを見ることができた。鳴き声は、ウグイスの地鳴きに比べると強く、金属的であるように思った。ヒクイナは頻繁に顔をだすが、クイナは警戒心が強いのかあまり出て来ない。

昨年は、♀成鳥に加えて若いオオタカも見ることができた。目の前で川にいるコガモを襲うシーンに遭遇した。狩りは失敗だったが大迫力であった。

ヨシ原の低木にはチョウゲンボウがとまり狩りのチャンスをじっとうかがっている。遠くの送電塔にはハヤブサが、田んぼの端の木立にはノスリがとまっている。寒さの中に暖かさを感じる日も増えてくる。

● 観察を続けてきて

観察を始めた頃は、全く管理の行き届いていない耕作放棄水田や荒地は良くないと考えていた。しかし、その環境が様々な動植物を育んでいることが分かり、一概に悪いとは言えず難しい問題だと思った。田んぼの中に、田んぼではない「ちょっとした空間」、例えばヨシ原や湿地をあえて残すことで、多くの生き物が生息できる豊かな田んぼになるのではないかと考えている。

MYフィールド&その周辺の野鳥たち

No.	種類	春 3~5月	夏 6~8月	秋 9~11月	冬 12~2月
1	キジ	○	○	○	○
2	ヒドリガモ	○			○
3	アメリカヒドリ	○			○
4	カルガモ	○	○	○	○
5	コガモ	○		○	○
6	ホシハジロ				○
7	キジノト	○	○	○	○
8	カワウ	○	○	○	○
9	ゴイサギ	○	○		
10	アマサギ		○	○	
11	アオサギ	○	○	○	○
12	亜種ダイサギ	○			○
	亜種チュウダイサギ	○	○	○	
13	チュウサギ	○	○	○	
14	コサギ	○	○	○	○
15	クイナ	○		○	○
16	ヒクイナ	○		○	○
17	バン		○	○	○
18	タケリ				○
19	ケリ				○
20	ムナグロ	○			
21	イカルチドリ				○
22	コチドリ	○	○		
23	タシギ			○	
24	チュウシャクシギ	○			
25	クサシギ			○	
26	イソシギ			○	○
27	タマシギ	○			
28	ツバメチドリ	○			
29	ユリカモメ				○
30	コアジサシ	○			
31	トビ	○	○	○	○
32	ツミ	○	○	○	
33	オオタカ	○		○	○
34	サシバ	○			
35	ノスリ	○			○
36	カワセミ	○		○	○
37	コゲラ	○	○		○
38	チョウゲンボウ	○	○	○	○
39	モズ	○	○	○	○
40	オナガ	○	○	○	○
41	コクマルガラス				○
42	ミヤマガラス	○		○	○
43	ハシボソガラス	○	○	○	○
44	ハシブトガラス	○	○	○	○
45	シジュウカラ	○	○	○	○
46	ヒバリ	○	○	○	○
47	ツバメ	○	○	○	
48	ヒヨドリ	○	○	○	○
49	ウグイス	○			○
50	メジロ	○	○	○	○
51	オオヨシキリ	○	○		
52	コヨシキリ	○			
53	セッカ	○	○	○	○
54	ミソサザイ				○
55	ムクドリ	○	○	○	○
56	コムクドリ	○		○	
57	アカハラ			○	
58	ツグミ	○		○	○
59	ジョウビタキ	○		○	○
60	ノビタキ			○	
61	インビヨドリ		○		○
62	キビタキ	○			
63	スズメ	○	○	○	○
64	キセキレイ	○			○
65	ハクセキレイ	○	○	○	○
66	セグロセキレイ	○	○	○	○
67	タヒバリ	○		○	○
68	カワラヒワ	○	○	○	○
69	シメ	○			○
70	ホオジロ				○
71	アオジ	○			○
72	オオジュリン	○			○
番外	ドバト	○	○	○	○

2022年 秋 会員から寄せられた「シギ・チドリ類の渡り情報」から

日本野鳥の会埼玉 調査部・IT委員会

当会ホームページでは、秋の渡りの時季にはシギ・チドリ類について専用サイトを設け、会員の皆様から観察情報をご提供いただいております。

2022年は7月16日から10月6日の間に20か所、115件の情報を頂きました。その結果、チドリ科5種、セイタカシギ科1種、シギ科19種、タマシギ科1種、ツバメチドリ科1種の5科27種が記録されました。詳細は表に記しました。なお、さいたま市岩槻区野孫で観察されたケリは、この春に当地で繁殖した個体の可能性があります。昨年はコオバシギの登場で賑わいましたが、今年、川越市久下戸、行田市斎条で記録されたオバシギも淡水環境での観察は珍しい種です。

<謝辞>以下の皆様からホームページ専用サイトへ観察情報をご提供いただきました。調査部、IT委員会一同、心より御礼申し上げます。

今村富士子、大井智弘、小林寧子、小林みどり、榮 武男、佐藤千沙、佐野和宏、嶋田富夫、富田英紀、野津弘毅、廣田純平、山部直喜(五十音順、敬称略)

(調査部 小林みどり、IT委員会 佐野和宏)

表 2022年 シギ・チドリ類の渡りまとめ表

観察地 鳥種	春日部市倉常(1)	春日部市倉常(2)	川越市下久戸	川越市・伊佐沼(1)	川越市・伊佐沼(2)	川越市菅間	川越市大仙波	川越市鴨田、芳野	行田市須加(1)	行田市須加(2)	行田市斎条	さいたま市南区大谷口	さいたま市見沼区膝子	さいたま市岩槻区野孫	さいたま市岩槻区小溝	幸手市神扇	杉戸町才羽(2)	蓮田市黒浜	富士見市水子	志木市・柳瀬川	観察地数
ケリ														○			○				2
ムナグロ	○		○						○		○						○				5
イカルチドリ	○		○									○									3
コチドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○			○	○		○					12
シロチドリ									○												1
セイタカシギ			○	○	○		○														4
オオジシギ			○						○												2
チュウジシギ			○																		1
タシギ			○					○			○	○						○			5
オグロシギ									○		○										2
ツルシギ									○										○		2
コアオアシシギ		○			○																2
アオアシシギ	○	○	○	○	○		○	○	○												8
クサシギ	○		○				○	○	○		○					○					7
タカブシギ			○	○			○	○	○	○	○										7
キアシシギ				○																	1
イソシギ					○				○			○				○		○		○	6
オバシギ			○								○										2
トウネン			○	○				○	○		○										5
ヨーロッパトウネン			○																		1
オジロトウネン			○	○	○				○	○											5
ヒバリシギ			○					○			○										3
ウズラシギ								○			○										2
エリマキシギ			○				○	○			○										4
アカエリヒレアシシギ															○				○		2
タマシギ			○								○							○			3
ツバメチドリ											○										1
種数	5	3	17	7	6	1	5	9	12	3	12	3	1	2	1	3	2	3	2	1	

※観察地に2つの3次メッシュが存在する場合は(1),(2)としています。

● スマホからの野鳥レポート

1つの報告の観察範囲は広すぎないように、川沿いなど線状の場合は行程1km以内、面的な場合は1km四方以内を目安にしてください。

ブラウザは、Google社のChromeを推奨します。


①会のウェブサイトのスマホ用画面で「便利情報」をタップ→「FieldNote」をタップ


②「FieldNoteの紹介」画面が開く

③「FieldNoteアプリ」をタップ

開くのは、スマホで現場から報告する際に使う画面です。自宅からの報告ではパソコン用（以下、「PC用」と略）の画面に切り替えます。

以下、Android12スマホによる説明ですが、Androidのバージョンによって画面表示が異なる場合があります。

・画面右上の  をタップ→メニューの「PC版サイト」にチェック→PC用画面に変わる

・PC用画面が表示された段階で、画面右上の  をタップ→ホーム画面に追加 をタップ と操作するとホーム画面にシラコバトマークのアイコンができます。次回からは、そのアイコンをタップすると入力画面が表示され、便利です。

④項目ごとの入力

・宛先: 報告者のメールアドレスを入力。このアドレスに、報告したデータが所定の様式で届きます。調査部からの問い合わせ先にもなります。



・観察者: フルネームで入力


・観察日: 西暦年月日を8桁の数字で入力

・天気: 観察時間中の天気を入力

・備考: 触れないでそのままに

・「地理院地図を表示」をタップ

・表示された地理院地図の画面右上にある  または  をタップ→設定をタップ→中心十字線 ON → 次回終了状態を再現 ON と設定

ついでに→  をタップ→地域メッシュ ON とすれば3次メッシュが表示されるようになります。

・地理院地図で画面左下の矢印をタップ（緯度・経度が表示されるまで矢印をタップ）→画面を動かして観察場所を適切な大きさで表示し、観察範囲の中心付近に+を合わせる→表示された緯度経度のうち、十進数で表示

されている部分をロングタッチ→色が変わりて選択される→表示されるウインドウの「コピー」をタップ

・次にFieldNoteの画面に切り替えて「3次メッシュ変換」をタップすれば、観察場所のメッシュコードが「3次メッシュの登録位置」に入ります。
・3次メッシュが分かる場合、「3次メッシュの登録位置」に直接入力すれば、地理院地図に関する操作は省略できます。

⑤チェックリストの表示

・リストは五十音順に表示されます。鳥類目録順を希望する場合はチェックを入れておきます。

・メッシュ検索範囲拡大倍率: 1~5で、数字が小さいほど狭い範囲の出現鳥が野鳥データベースの記録に基づき表示されます。

大き過ぎると鳥種が多くなって探すのが大変です。地域によって違うので、どの程度が適切か、数字を変えながら試してみてください。

・検索期間: 観察月を設定。「ALL」を選択すると通年のリストが表示されます。

・ここまで設定を終えたら「チェックリスト表示」をタップ

・あとは観察した鳥をチェックしていきます。

・間違えたときには、その鳥の「記録回数」の欄をタップすると削除できます。

・リストに出ていない鳥があったら、リスト下の「観察種追加」をタップすると追加できます。

・入力が終わったら、リスト下の「観察種を全て入力しましたか?」にチェックを入れます。

・「支部宛通信メモ」にメッセージなどを入力。

・「観察結果を公開する」は、他の報告者と情報共有する“birdViewer”のデータとして提供する場合、チェックを入れておきます。

なお、“birdViewer”については、取扱説明書を参照してください。いま話題の“eBird”の埼玉県内版とも言えるものです。

・更に下側にある「観察終了」をタップ。次いで、右に表示される「メール送信」をタップ→「メール送信成功です」と出たら報告完了です。

・届いたメールで報告内容を確認し、間違いがあったら修正したデータを再度送信してください。“birdViewer”を利用する際に必要なパスワードもメールに記載されています。



野鳥情報

松伏町 まつぶし緑の丘公園

◇2021年12月5日、友人と池の最南部で、ヨシの中に半分入った状態のサンカノゴイ1を見つけた。この辺りを熟知している友人は、ここで観るのは初めてだと興奮していた(鷺崎敏明)。



狭山湖とその周辺

◇3月21日、スズメ、メジロ、ムクドリ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ツバメ、ホオジロ、モズ、カワラヒワ、ジョウビタキ、ツグミ、キジバト、カワセミ、イカルチドリ、カンムリカイツブリ、キンクロハジロ、カルガモ、マガモ、オオタカ、トビ、ノスリ。4月8日、スズメ、ムクドリ、メジロ、ヒヨドリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ツバメ、カワラヒワ、コゲラ、アオゲラ、コジュケイ、アオジ、ヤマガラ、ホオジロ、モズ、エナガ、オオタカ、ツツドリ、キジ、キジバト、ガビチョウ、上空にカワウ(村越百合子)。

さいたま市緑区トラスト1号地周辺

◇3月24日、コゲラ3、ヒヨドリ9、シジュウカラ6、カケス4、メジロ9、モズ3、ハクセキレイ2、セグロセキレイ3、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ホオジロ5、ムクドリ8、スズメ11、ツグミ8、エナガ9、ウグイス、ヤマガラ3、カワラヒワ5、ヒバリ6、ツバメ4、アオサギ2、アマツバメ2、ビンズイ複数。4月17日、スズメ8、ムクドリ7、メジロ9、ヒヨドリ5、ハクセキレイ3、セグロセキレイ2、ハシブトガラス、ハシボソガラス、カワラヒワ6、カルガモ5、カイツブリ3、カケス3、ウグイ

ス、コゲラ2、ヤマガラ3、シメ2、モズ2、キジ♂1 ♀3、キジバト6、ダイサギ2(村越百合子)。

埼玉県立狭山自然公園(53395323)

◇3月24日、コジュケイ、マガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ミサゴ、トビ、オオタカ、サシバ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、アオジ(嶋田富夫)。

滑川町 悪太郎沼 N36.0609 E139.3439

◇3月29日、オシドリ、マガモ、コガモ、キジバト、アオサギ、モズ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ガビチョウなど(長嶋宏之)。

滑川町 国営武蔵丘陵森林公園とその周辺

◇3月26日、カワラヒワ、ツバメ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、シジュウカラ、ツグミ、ヤマガラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、シメ、キジバト、アオジ、メジロ、ダイサギ、コサギ、ウソ、ムクドリ、コチドリ、マガモ、ハシビロガモ、カイツブリ、キンクロハジロ、コガモ、ジョウビタキ、カワセミ、エナガ、オナガ、モズ、コジュケイ、アオゲラ、オオタカ、アカハラ、ルリビタキ、コサメビタキ、ミソサザイ、イカル65、コイカル、ガビチョウ(村越百合子)。

蓮田市 西城沼公園とその周辺

◇3月27日、翼先を尖らせ、翼を少し窄めて、屋敷林に急降下するカラス大のタカ2羽。腰が白かったのでオオタカであろう。藤棚の近くの檜の樹の昨年と同じ巣で、ハシボソガラスの抱卵が始まった。番いの♂親は口元に腫物が出来て、病気のようだ。ちゃんと子育てできるだろうか。3月31日、イチョウの大木の天辺にシメが5羽とまっていた。他にカルガモ、ツミ、カワセミ、コゲラ、オナガ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイなど。4月1日、カワセミがホバリングの後、飛び込んだが失敗。3回目に小魚をGet。4月6日、小型の黒っぽいタカが屋敷林に飛び込んだ。カラスが3羽飛び出し、驚いた様子で鳴きながら、

別々の方向に飛び去った。4月8日、♂が病気のカラスの番い、♀は抱卵を諦めたようだ。その♀が巣に近づいたカワラヒワ5羽を追い払った。4月11日、約100羽のヒヨドリが、鳴きながら地上30m位の高さを、北に向かって飛んだ。4月12日午前8時10分、西の空をオオタカが旋回。西に流れた。病気の♂がいるカラスの番い、今日は姿がない。ここでは珍しく、梢でホオジロが囀っていた。芝生でツグミが2羽。ここでの終認。今季はツグミが少なかった。4月15日、通称“陽だまりの樹”にシメが4羽並んだ。4月20日、同じ樹にシメ7羽。4月23日、シメ3羽。これが終認となった。近頃、ヒヨドリの数がめっきり減って、静かになった。4月26日、病気のカラスの写真を撮っていたら、番い相手の♀のカラスが飛んできて、私を頭上の枝で威嚇した。撮るのをやめたら2羽で飛び去った。病気のカラスはまだ元気だった。4月28日、民家のTVアンテナでホオジロが囀っていた。ここで囀りを聞くのは、今季2度目。4月30日、久しぶりにコジュケイの「チョット来い」を聞き、「オウ!まだ健在だったか!」他にカルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ダイサギ、モズ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、エナガ、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイなど(長嶋宏之)。

鴻巣市関新田 川里中央公園 N36.0922 E139.5247

◇3月29日、ノスリ、ヒヨドリ、ニュウナイスズメ、スズメ、カルガモなど(長嶋宏之)。

久喜市菖蒲町小林

◇3月29日、ニュウナイスズメ50±、スズメ50±(長嶋宏之)。

さいたま市見沼区膝子

◇3月30日、オオジュリン夏羽、ホオアカ2、カシラダカが草地で採餌。木にノスリ1。ウズラが2ヶ所で鳴いている。うち1ヶ所では2羽が鳴いている。草むらの中で一切姿見えず。4月11日、相変わらず草地より複数のウズラの声(鈴木紀雄)。

◇4月16日午後5時頃、コシヤクシギ43~45飛翔(藤原寛治)。

川島町紫竹

◇4月5日、水田でホウロクシギ1(下写真)。翌日にはすでにいなかった、短期間降りただけのようだ(岡部 悟)。



北本市 北本自然観察公園

◇4月7日、ウグイスが数ヶ所できれいに囀っていた。さすが日本の3鳴鳥。渡り前のアオジが並んで2羽、しっかり脂肪を蓄えて、さらに採餌に忙しそう。愛くるしいエナガが1羽、枝移り。カワセミもヨシにとまって、存在を誇示。他にカルガモ、コガモ、アオサギ、モズ、シジュウカラ、ヒヨドリ、スズメ、セグロセキレイ、ガビチョウ、コジュケイなど(長嶋宏之)。

蓮田市黒浜 国立病院機構東埼玉病院

◇4月7日、林の上空をサシバ1がゆったりと東へ飛んだ。4月18日、藪の中にヤマガラ1、杉の天辺にツミ♂1(鈴木紀雄)。

さいたま市桜区 秋ヶ瀬公園

◇4月9日、こどもの森でハイタカ1、オオルリ♂1、アトリ、イカル10±。4月20日、野鳥園でコマドリ♂1(下写真)(鈴木 功)。

◇4月24日、子供の森でオオルリ♂1、キビタキ♂1、センダイムシクイ、サンショウクイの声。巣立ち直後のエナガ幼鳥など(鈴木紀雄)。



上尾市領家 サクラソウトラスト地周辺

◇4月9日、スズメ7、メジロ3、ムクドリ6、オナガ

1、ヒヨドリ5、アオサギ1、コサギ1、ハシブトガラス3、ハシボソガラス5、カワラヒワ1、ホオジロ2、ウグイス、上空にカワウ2、キジ1、キジバト3、コゲラ2、コガモ♂12♀8、ガビチョウ2(村越百合子)。

さいたま市岩槻区尾ヶ崎

◇4月11日、まだ水のない田圃にチュウサギ1、今季初認(鈴木紀雄)。

蓮田市黒浜

◇4月12日、オナガ8の飛翔。ホオアカ2も飛び出す。上沼の水面に何度も何度もタッチアンドゴーを繰り返すトビ1。番いらしき2羽のコチドリに別の1羽がちよっかいを出すも追い払われた。セグロセキレイの囀り。4月18日、鉄塔上部にトビ営巣の様子(鈴木紀雄)。

◇4月29日、田圃で夏羽のアマサギ1、ダイサギ4、コサギ1、ハシボソガラス4が一枚の水の入った水田で採餌。アマサギの小ささに改めて驚く(長嶋宏之)。

さいたま市岩槻区 岩槻文化公園

◇4月12日、ヒヨドリ50の群れが渡って行く。元荒川にはカイツブリの番い、ハイタカが飛び、その遙か上をアオサギ1とカラス2。ヒクイナの「キョッ キョッ」の声、オオタカがキジバトを追うも諦め、鉄塔へ。4月15日、ムシクイ類1が枝先を動く。キビタキ♂1、シメ、アオジなど。コガモ、陸に上っているヒドリガモ10。上空をミサゴが北へ。ヒクイナの声2ヶ所より。4月17日、ヒクイナの声、元荒川側からも聞こえる。エナガがヒナに餌やり。親が来るとヒナの黄色い口が3つくらい巢の外に飛び出す。4月25日、キビタキ3～4ヶ所で囀り。センダイムシクイが鳴きながら梢をチョロチョロしている。湿地内のノイバラの藪の中、高さ50cm程の枝でヒクイナが鳴いている。ほとんど口を開かず、喉をふくらませて鳴く。最後の「キョキョキョ…」になると尾も上下に振って全身を使っていた。さらにコマドリの囀り!!しかし、姿見えず。5月4日、声ばかりでオオヨシキリ、ヒクイナ、エゾムシクイ、ヒタキ類の「ヒッヒッ…クルル…」。そして「ヒーン ヒーン」はもしやトラツグミ?(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区 岩槻城址公園

◇4月14日、センダイムシクイの声響く。「キョロ

ン キョロン」とシロハラが囀っている。嘴が青くなったシメ10羽ほどが咲き終わったソメイヨシノの花茎をついばむ。アオサギのコロニーにダイサギも3巢ほど(鈴木紀雄)。

◇4月29日、赤松が混じる小さな杉林に、サギのコロニーがあった。巣材をくわえたダイサギが旋回し、抱卵しているアオサギがいた。コサギもいるようだ。セグロセキレイが芝生で採餌。この鳥を見ると、何とは無しに嬉しくなる。他にキジバト、ハシボソガラス、シジュウカラ、ツバメ、メジロ、ムクドリなど(長嶋宏之)。

川越市伊佐沼

◇4月17日、ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、コムクドリ、スズメ(嶋田富夫)。

◇4月22日、オオハシシギ夏羽1(鈴木 功)。

杉戸町才羽

◇4月20日、道の駅アグリパークゆめすぎと隣接道路の電線にムクドリ数羽とともにコムクドリ♂1。ムクドリより2回りも小さく見え、実にかわいい。水の入りを始めた田にムナグロ約85(鈴木紀雄)。

志木市宗岡(53396417)

◇4月21日、田んぼでコシヤクシギ2、キジバト、アオサギ、ダイサギ、ムナグロ、コチドリ、タシギ、ハシボソガラス、ツバメ、ヒヨドリ、セッカ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ(嶋田富夫)。

◇4月22日、水田でムナグロ28(鈴木紀雄)。

さいたま市西区昭和

◇4月22日、耕耘前の水田の草地にウズラ♂1、赤褐色の頬が目立つ(鈴木紀雄)。

越谷市 越谷レイクタウン(53396655)

◇4月22日、コアジサシ3(鈴木 功)。

草加市柿木町

◇4月22日、ムナグロ28、タシギ1(53396645)、クロジ3(53396636)。4月30日、ムナグロ73、チュウシャクシギ1(53396645)、クロツグミ囀り1、イカル1(53396636)(鈴木 功)。

羽生市 羽生水郷公園

◇4月23日、オオセッカ、さえずりのみ(姿は確認できず)。この日は、身近なところで渡りの

小鳥を見つけたいと思って、午前7時半過ぎに到着。宝蔵寺沼の南側のヨシ原でセッカが鳴いているなどと思って聞いていたら、オオセッカのさえずりも!!他にオオルリ、キビタキ、サンショウクイのさえずり(小林寧子)。

さいたま市西区島根(53396457)

◇4月23日、コシャクシギ7(そのうちの1羽下写真)、イソヒヨドリ♂♀、カルガモ、キジバト、ムクドリなど(嶋田富夫)。



◇4月23日、田んぼでコシャクシギ7。春に群れが観察されるのは稀(鈴木 功)。

◇4月24日午前7時頃、土手上を南下中に、カメラマンと思われる車が多数とまっていたので、土手から下りてカメラマンに聞くと、コシャクシギを探しているとの事。私も付近を探していると、3羽が飛び上がり、通称B区方面に2羽。1羽が近くに降りるのを発見。貧弱なカメラしか持っていなかったもので、自宅に帰って、カメラを交換し、戻り撮影した(金井祐二)。

さいたま市岩槻区掛

◇4月23日、耕作地でムナグロ16(鈴木紀雄)。

さいたま市緑区大崎

◇4月23日、キビタキ、サンショウクイ、ヤマガラ、シメなど(藤原寛治)。

さいたま市見沼区御蔵

◇4月24日、クマガイソウ自生地で小さい声でぐぜっているコサメビタキ1(鈴木紀雄)。

さいたま市西区土屋

◇4月25日、ムナグロ12。4月26日朝、チュウシャクシギの飛んでいる姿と声を聞く(金井祐二)。

さいたま市岩槻区本宿

◇4月26日、耕作地でムナグロ90、タシギ1、コチドリ1、チュウサギ3など(鈴木紀雄)。

新年のご挨拶を申し上げます

日本野鳥の会埼玉 代表 山部直喜

会員の皆様におかれましては、新しい年2023年(令和5年)が心身ともに素晴らしい年になりますよう心からお祈り申し上げます。



本年もどうぞよろしくお願いたします。

去年はやはりコロナ禍の一年でした。しかし、今月の1-2月号の行事案内欄をご覧ください。泊を伴わない探鳥会の16本中7本が予約不要の「フリー」です。今年の同号は全てが「要予約」でした。実に心強い前進です。

これからも、当会を応援し続けてくださっている会員お一人お一人、そして通常の組織活動を支え続けてくださっている各部・委員会の皆様、力を合わせて前進していきましょう。

久喜市 久喜菖蒲公園

◇4月28日、夏羽のカムリカイツブリが1羽。丁寧な羽繕。カイツブリが1羽、潜水を繰り返す、何かをくわえた。他にカルガモ、カワウ、アオサギ、コサギ、オオバン、オナガ、ハシブトガラス、シジュウカラ、スズメ(長嶋宏之)。

上尾市地頭方～平方領領家

◇4月28日、スズメ、メジロ、ムクドリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、キジ、モズ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ツバメ、イワツバメ、ツグミ、シジュウカラ、カルガモ、カワラヒワ、コチドリ、イカルチドリ、ホオジロ、アオジ、キジバト、ヒバリ、エナガ、コゲラ、オナガ41、カケス、ガビチョウ。オオヨシキリとキビタキ今季初認(村越百合子)。

表紙の写真

ヒタキ科ジョウビタキ属ジョウビタキ

昨年1月17日に撮影。冬になると、ジョウビタキを写さないではいけない。

徳名貴房(さいたま市)



3月以降に開催される探鳥会のご案内。予約なしフリーと予約が必要なものが混在しています。ご注意ください！

【予約制とフリーの二通りで開催！】

新型コロナウイルスとインフルエンザのダブル感染が懸念される季節ではありますが、感染防止策を十分にとった上で探鳥会を開催したいと思います。3月以降も、予約制とフリー参加の2本立てで探鳥会を開催することにしました。

予約制探鳥会：「要予約」と記載。基本的に会員限定(埼玉会員優先)ですが、非会員の方も参加可能な探鳥会(一般可)もあります。

フリー参加探鳥会：「フリー」と記載。予約不要で、会員に限らず一般の方も参加可能な探鳥会です。ただし、コロナ対策は万全に。

何れも、探鳥会参加費を頂戴します。会員100円、非会員200円、中学生以下 無料。

《開催要項》

1. 予約申込は、当会のホームページからとします(原則として開催日の4週間前からホームページで受け付けを開始します。予約制探鳥会では、予約なしでの参加はご遠慮ください)。
2. 探鳥会の運営は「コロナ禍の下での探鳥会運営マニュアル」に沿って実施します(最新版が、当会ホームページの「探鳥会」>「今月の探鳥会」から閲覧できます)。
3. 必須条件：(1)マスク着用、(2)参加票への記入、確認、署名。(体調などの確認項目があります。発熱などの症状のある方は参加をご遠慮ください。)
4. 筆記用具や観察用具(双眼鏡等)は、各自で用意してください。
5. 万一、探鳥会開催後に参加者から新型コロナウイルス感染者が出た場合は、参加者名簿を保健所などに提出することがあります。
6. 新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、探鳥会を中止することがあります(最新情報をホームページで確認してから参加してください)。

★この案内は2022年12月末時点で作成しています。ダイヤ改正の時期ですので、最新の交通(路線)情報を確認の上、お出かけください。

千葉県銚子市・銚子漁港探鳥会

期 日：3月4日(土) 要予約

※詳細は2022年11-12月号をご覧ください。

狭山市・智光山公園探鳥会

期 日：3月5日(日) 要予約

集 合：午前9時、智光山公園管理事務所前。

交 通：西武新宿線 狭山市駅西口から、8時38分発智光山公園行き西武バスで終点下車。

解 散：正午ころ、集合場所で。

募集人数：20名

担 当：石光、小林(ま)、佐藤(久)、山本(眞)

見どころ：林、池、清流と整備された都市公園。カモ類、冬の小鳥…今年はどうな顔ぶれが揃うでしょうか？

さいたま市・見沼自然公園 家族(親子)・ビギナー探鳥会

期 日：3月11日(土) 要予約

集 合：午前9時、見沼自然公園管理事務所付近。

交 通：JR大宮駅東口⑦番バス乗り場8:20発「浦和学院高校」行きで「締切橋」下車。バス停からご案内します。

解 散：正午ころ、集合場所で。

募集人数：20名 一般可

担 当：大井、浅見(健)、浅見(徹)、市原、小林(み)、森本

見どころ：「家族(親子)でバードウォッチング」、子どもさん連れOK初心者向けの企画です。身近な鳥たちを観察しましょう。

栃木県・日光東照宮裏山探鳥会

期 日：3月12日(日) 要予約

集 合：午前9時30分、東武日光駅前。駅から探鳥スタート。車の方も駅へ。

交 通：春日部7:29発東武スカイツリーライン

→南栗橋7:54着で東武日光線急行に乗り換え8:03発→東武日光9:18着。

解散：午後2時ころ、神橋付近で。

募集人数：20名

担当：浅見(徹)、佐野、瀬尾、別井

見どころ：カワガラスやミノサザイを求めて、大谷川～稲荷川に沿って歩きます。東照宮裏の社寺林では、カラ類やアトリ科の小鳥などに期待。全行程約8km、緩い上り下りがあります。足ごしらははっきりと。途中、トイレがないのが難点です。昼食持参(東武日光駅の売店でも購入できます)。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期 日：3月16日(木)平日 フリー

集 合：午前9時、羽生水郷公園水族館前休憩舎。

交 通：羽生市福祉バスの手子林・三田ヶ谷ルート(ムジナもん号)を利用、東武伊勢崎線羽生駅東口8:04発→南羽生駅8:21発→「キヤッセ羽生・水郷公園」下車、県道を渡り公園へ。

解 散：正午ころに集合地で。

共 催：羽生水郷公園管理事務所

担 当：相原(修)、相原(友)、新井、関口、中川、長嶋、細田、茂木

見どころ：平日の静かな公園でオオジュリンやベニマシコ、ヨシガモなど冬鳥たちとの別れを惜みます。気の早い夏鳥は来ているかな。

ご 注 意：帰りのバスは14:50発です。

秩父市・秩父ミュージアムパーク探鳥会

期 日：3月18日(土) 要予約

集 合：午前9時10分、西武秩父駅前。集合後、ミュージアムパーク循環バス9:30発で音楽寺下車。または午前9時45分、ミュージアムパーク内の百花園駐車場。

交 通：秩父鉄道熊谷7:45発→御花畑8:53着→<徒歩8分>→西武秩父9:03着。または所沢7:25発(西武池袋線急行)→飯能7:49着(乗り換え)7:52発→西武秩父8:47着。

解 散：昼食後、午後1時半頃に現地で。西武秩父駅行きのバスは14:27発(秩父

駅14:33着、西武秩父駅14:45着)。

募集人数：20名

担 当：長野、青木、井上、佐野

見どころ：当会では数少ない秩父市内での探鳥会です。カラ類やキツツキ類を中心に観察します。アトリの群れ、ウソやマヒワにも期待しましょう。ルートは若干のアップダウンがあります。

ご 注 意：弁当を持参してください。園内に売店はあります。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期 日：3月19日(日) フリー

集 合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

交 通：JR 北浦和駅東口バスターミナルから東武バス1番乗り場「さいたま市立病院行」8:21発で終点下車。

解 散：正午前に集合地で。

後 援：さいたま市立浦和博物館

担 当：青木、浅見(健)、浅見(徹)、小林(み)、須崎、中橋、島山、三好

見どころ：冬もいよいよ終わりが近づき冬鳥達もお別れ。ツグミやアオジも綺麗な姿になっています。三室地区にて基本的な鳥達と一緒に探しませんか。初心者(ビギナー)の方にも最適です。皆さまのお越しをお待ちしております。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期 日：3月21日(火・祝) 要予約

集 合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車場。

交 通：東武伊勢崎線 北越谷駅東口①番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き9:00発で「松伏高校前」下車。または武蔵野線 吉川駅北口③番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き8:40発で「松伏高校前」下車。松伏高校の向かい側が集合場所です。

解 散：正午ごろに集合地で。

共 催：松伏町中央公民館

募集人数：当会会員20名、共催団体5名。

担 当：山部、石川(光)、佐野、橋口

見どころ：公園と田んぼを歩き、春分の時期の留鳥たちや冬鳥の変化を見つけます。夏鳥のツバメも来ています。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期 日：3月25日(土) フリー
集 合：午前8時45分、中央エントランス駐車場。
交 通：東武線館林行き 新越谷7:23春日部7:38東武動物公園駅7:43で南栗橋行きに乗り換え 南栗橋7:54着で東武宇都宮行きに乗り換え 柳生8:10着。またはJR宇都宮線下り大宮7:27栗橋7:55着 東武日光線に乗り換え 柳生8:10着。遊水地への標識に従って中央エントランスへ。
解 散：正午ころ、谷中村史跡ゾーンで。
担 当：佐野、浅見(徹)、小林(み)、瀬尾、野口、別井、山本(恵)、山本(巧)
見どころ：ヨシ焼きの終わった遊水地を史跡ゾーンまで歩きます。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期 日：4月2日(日) フリー
集 合：午前9時、北本自然観察公園・埼玉県自然学習センター玄関前広場。
交 通：JR高崎線 北本駅西口から、「北里大学メディカルセンター行き」バス 8:38発で「自然観察公園前」下車。
解 散：正午前に集合地で。
担 当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、秋葉、浅見(徹)、大畑、近藤、関口、山本(恵)、吉原(早)
見どころ：公園内の湿原、林、池など多彩な環境の中で、渡去前の冬鳥と、気の早い夏鳥を探します。カワセミなどの留鳥も。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期 日：4月2日(日) 要予約
集 合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。
交 通：JR浦和駅東口①番バス乗り場から、東川口駅北口行き8:37発で「念仏橋」下車。
解 散：正午ころ、浦和くらしの博物館民家園。
募集人数：20名 一般可
担 当：伊藤、大井、須崎、手塚、中橋、野口、藤田
見どころ：しばらく振り開催の、春の見沼の探鳥

会。今月はヘルシーロードコースです。そろそろ見納めの冬鳥たちと、そろそろ来るかも?夏鳥たちとの出会いを楽しみに。

ご 注 意：第一調節池方面には行かない予定です。

東京都・裏高尾植物観察会

期 日：4月8日(土) 要予約
集 合：午前10時、高尾駅南口。
交 通：JR中央線特快・高尾行 新宿8:54発 →高尾9:37着。
解 散：午後2時半ころ、現地(日影バス停付近)にて。
募集人数：20名
担 当：小林(み)、青山(美)、工藤、藤田
見どころ：数種類のスマレ類始め、艶やかな花、清楚な花。裏高尾の花街道をのんびり歩きながら、あなたのお気に入りの花を見つけましょう。
ご 注 意：軽登山靴など長時間の歩行向きの靴でお出かけください。鳥の観察はほとんどしませんので、スコープ・三脚・大型カメラはご遠慮ください。

春日部市・内牧公園探鳥会

期 日：4月15日(土) フリー
集 合：午前9時15分、アスレチック広場前・第一駐車場。
交 通：春バス(コミュニティバス)が便利です。(1)東武野田線豊春駅西口発 8:06 →内牧公園着 8:21、(2)東武伊勢崎線北春日部駅西口発 8:38 →内牧公園着 8:50。または、東武春日部駅西口、朝日バス③番乗り場から春日部エミナス行き 8:41発で、「共栄大学入口」下車。西へ徒歩約7分。
解 散：正午ころ、集合地で。
担 当：石川(敏)、青山(美)、佐野、長野、橋口、別井、三好
見どころ：雑木林、蓮池、田んぼ、屋敷林を巡り、小鳥を探鳥。この頃はセンダイムシクイやキビタキなどが記録されています。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期 日：4月16日(日) フリー
集 合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
交 通：JR 北浦和駅東口バスターミナルから東武バス1番乗り場「さいたま市立病院行」8:21発で終点下車。
解 散：正午前に集合地で。
後 援：さいたま市立浦和博物館
担 当：浅見(徹)、青木、浅見(健)、小林(み)、須崎、中橋、畠山、三好
見どころ：春真っ盛りの見沼たんぼ。ヒバリ、シジュウカラ、ホオジロなどのさえずりが楽しめます。水田にはコチドリがいるかも。

さいたま市・大宮第二公園探鳥会

期 日：4月22日(土)早朝 フリー
集 合：午前7時30分、大宮第二公園ギャラリー棟(管理事務所)前。
交 通：東武野田線 大宮6:52発、または春日部6:36発に乗車し大宮公園で下車。第二公園まで徒歩約20分。車の方は大宮第二公園駐車場が利用可能(この日特別に午前7時開門)。
解 散：午前10時ころ、集合地で。
共 催：大宮第二公園管理事務所
担 当：浅見(徹)、青木、浅見(健)、近藤、瀬尾、三好
見どころ：朝の静かな公園で、野鳥の声を楽しみませんか。渡りの時は、身近な公園でも夏鳥の美しいさえずりを聞けることがあります。運が良ければ姿も見られることがあります。期待の鳥は、キビタキ、センダイムシクイ、エゾムシクイなど。

栃木県・小倉山森林公園探鳥会

期 日：4月23日(日)または29日(土)
要予約
集 合：午前8時30分、東武日光駅前。集合後徒歩で現地へ。
交 通：特急リバティけごん1号・東武日光行き 春日部7:04発→東武日光8:24着。
解 散：昼食後に現地で。
募集人数：15名
担 当：青木、浅見(徹)、佐野、長野
見どころ：オオルリはかなりの確率で見ることが

できます。今までの探鳥会では100%です。まだ見たことのない方ご参加ください。去年はサンショウクイを多く見ることができました(もちろんオオルリも)。ただ、オオルリの個体数や葉の繁り具合が予想つかないので、4月になってから現地見をして4月15日までに参加予定者に探鳥会実施日をメールします。



(昨年4/23小倉山探鳥会のオオルリです)

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期 日：5月20日(土)～21日(日)
集 合：20日午前9時、長野駅コンコース、新幹線改札口を出て右側。
交 通：新幹線「あさま601号」(東京6:52→大宮7:17→熊谷7:30→高崎7:45→長野8:37着)、または「かがやき503号」(東京7:20→大宮7:45→長野8:42着)など。
解 散：21日16時頃、長野駅前。「あさま626号」(16:24発)に乗り乗車できるように調整。
費 用：16,000円の予定(1泊3食、現地バス代、旅行傷害保険料等)。万一過不足は当日清算。集合地までの往復交通費は各自負担。
定 員：未定。
申し込み：当会ホームページで4月1日から受付開始。
担 当：菱沼(一)、浅見(徹)、近藤、菱沼(洋)
見どころ：キバシリ、ゴジュウカラなど平地で見られない山の小鳥たちとキビタキ、コリリ、ノジコ、アオジなどのコーラスを楽しめます。
そ の 他：宿泊は男女別(夫婦は同室)。定員と部屋割りは、宿の状況で変わります。決まり次第、ホームページでご案内する予定です。



6月2日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加:19(会員18)名 天気:快晴

キジ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ
ゴイサギ アオサギ ダイサギ コゲラ チョ
ウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブト
ガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ メジロ
オオヨシキリ セッカ ムクドリ スズメ ハク
セキレイ カワラヒワ ホオジロ(24種)(番外:
ドバト) 好天に恵まれた公園を歩くと湿地の
ヨシ原ではオオヨシキリ、セッカが鳴き、ホオジ
ロも囀っている。池の周囲ではアオサギが佇
み、ゴイサギやダイサギが飛ぶ、ここのアオサ
ギは水面近くに営巣するのが面白い。今年
はカワラヒワが多く、花に止まる幼鳥がじつくりと
観察できたのも嬉しい。叢を歩くキジや上空を
飛翔するチョウゲンボウも楽しませてくれ、平日
の探鳥会を堪能した。(相原修一)

6月4~5日 新潟県 奥只見銀山平

参加:25(会員25)名 天気:4=晴、5=曇後晴

カルガモ キジバト カワウ アオサギ ホト
ギス ツツドリ カッコウ イソシギ ミサゴ
ハチクマ トビ サシバ ノスリ イヌワシ ク
マタカ プッポウソウ コゲラ オオアカゲラ
アオゲラ チョウゲンボウ ハヤブサ サン
ショウクイ モズ カケス ハシボソガラス
ハシブトガラス ヒガラ シジュウカラ ヒバリ
ツバメ イワツバメ ヒヨドリ ウグイス エナ
ガ メジロ オオヨシキリ ゴジュウカラ ミソ
サザイ ムクドリ カワガラス クロツグミ コ
ルリ コサメビタキ キビタキ オオルリ ニュ
ウナイスズメ スズメ キセキレイ ハクセキレ
イ セグロセキレイ カワラヒワ イカル ホオ
ジロ ノジコ アオジ(55種) 初日は松之山
へプッポウソウを見に行った。木の上から目の
前を飛び回ってくれたりして、嘴のオレンジ色や
翼の白色が印象的だった。宿泊地の銀山平
に移動して夕食後、地元でイヌワシの調査を
している方の講義を聞いた。2日目の早朝は、残
雪がある銀山平森林公園を探鳥。朝食後は、
銀山平からダムサイトまでの遊覧船の屋上で、

上昇気流を利用する猛禽類を観察した。午後
は、八海山の4合目まで行って探鳥。松之山・
銀山平を中心とした初夏の中越地方の自然
を満喫した2日間だった。(入山 博)

6月5日(日) 北本市 石戸宿

参加:24(会員24)名 天気:曇

コジュケイ キジ カルガモ キジバト アオ
サギ ダイサギ ホトギス トビ ノスリ カ
ワセミ コゲラ サンコウチョウ ハシボソガ
ラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ
ツバメ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ
オオヨシキリ キビタキ スズメ ホオジロ(25
種)(番外:ガビチョウ) 集合場所の近くで
サンコウチョウが囀るのが聞こえる。出発ま
でずっと啼いていたが、啼き声を後にエドヒガ
ンザクラ方向に出発。1時間後に戻った時もまだ
囀り中。再出発し高台に向かう途中では真上
で囀るが、葉に隠れ姿は確認できなかった。
石戸宿で至近距離&長時間の囀りを聞いた
のは初めて。キビタキ、ホトギスの声、オオヨ
シキリの囀る姿も。(吉原俊雄)

6月19日(日) さいたま市 三室地区

参加:28(会員28)名 天気:晴

キジ カルガモ キジバト カワウ カワセミ
コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス
シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ エナ
ガ メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ
セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ(20種)
(番外:ドバト) 梅雨の最中の探鳥会。ところ
が天気は“晴”!! 夏の日差しが暑〜い。当地
の熱中症情報を確認すると、WN社:厳重警
戒、Yahoo天気予報:警戒、環境省(さいたま
市全体の予報として):警戒。予定していた
コースと時間を短縮して実施した。途中、
NPO水のフォルムが管理する斜面林で一休
み、水分補給。お目当てのコチドリには会えな
かったが、ホオジロとヒバリの囀りと姿を堪能
して、エアコンの効いた博物館で鳥合わせ。
アフターは久しぶりに事業部が出店して野鳥
グッズを販売。バードメイトのピンバッジが好評
だった。(浅見 徹)

7月2日(土) 群馬県板倉町 渡良瀬遊水地

猛暑のため中止。(佐野和宏)



連絡帳

●川越市長に要望書提出

10月24日(月)～26日(水)のメール交換による役員会で承認された川越市伊佐沼花火大会に関する山部直喜当代表名による川越市長あて要望書を、この件の担当者である小林みどり副代表から、10月27日(木)付け郵便で川越市長に提出した。

要望書の要旨は、次の通り。

「当会は、自然にあるがままの野鳥に接して楽しむ機会を設け、野鳥に関する科学的な知識と適正な保護思想を普及することで、埼玉県民の間に自然尊重の精神を育て、人間性豊かな社会の発展に役立てることを目標に掲げ、埼玉県内各地で探鳥会などの普及啓発活動と野鳥の生息状況に関する調査活動を行い、川越市内においても、伊佐沼で探鳥会や冬季のカモ類個体数調査を行っております。

伊佐沼での花火大会は、1,000羽を越える雫を形成する7種のサギ類(その中には希少なヨシゴイ、チュウサギが含まれていて、この2種はともに環境省レッドデータブックでは準絶滅危惧種、埼玉県レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されています)などの野鳥たちに大きな影響を与えるので、一番の要望は、伊佐沼での花火大会の中止です。しかしながら、花火大会を楽しみにされている方々も多いことと存じます。そこで、中止できない場合は、川越運動公園、または安比奈親水公園への会場変更を要望します。」

●会員数は

12月1日現在1,462人です。

活動報告

10月16日(日)13時00分～16時55分、第46回関東ブロック協議会が千葉県担当によるオンライン形式で開催され、参加者合計43名、当会からは小林みどり副代表、浅見徹幹事、佐野和宏IT委員会委員長、市原あゆみ同委員、瀬尾桂一同委員の5名が参加。各団体の活動状況などにつき情報を交換した。

11月27日(日)、さいたま市立浦和博物館主催の親子探鳥会に参加した10組24名の親子に、浅見徹、石塚敬二郎、石塚真理子、廣田純平の4名が指導。少々風が強かったものの好天に恵まれ、ハイタカ等猛禽類の飛翔他18種を確認したとのこと。

12月4日(日)、オンライン形式による普及部会を開催した。

12月13日(火)～15日(木)、メール交換による役員会を開催。第1号議案『『しらこぼと』発行を、『野鳥』誌隔月6回発行に合わせて、隔月6回発行とする。』、第2号議案「令和5年3～4月探鳥会計画(案)」を承認した。

編集後記

ここ1年ほど図書館のヘビーユーザーになっている。今は図書館もネットで予約できるので便利になった。常時20冊以上予約している。評判になった本は、1年半以上待つものもある。すっかり活字中毒である。ただ、図鑑だけは借りるというわけにはいかず、本屋で購入している。(藤)

越谷市の市民活動で、4年ぶりにカラスの雫入り個体数調査を行った。以前の2/3の激減に驚いている。(山)

しらこぼと 2023年1-2月合併号(第456号)

発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

郵便振替 00190-3-121130 URL <https://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org
編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org

住所変更などの連絡は gyomu@wbsj.org またはTEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635
〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。